

2016 年度聖書の集い（第 9 回）

2017 年 2 月 8 日

桃山基督教会

<http://momoyama.hannnari.com/>

古本 靖久

- 1、聖歌 497 番 「恵みの光は」
- 2、お祈り
- 3、聖書 「ヨハネによる福音書 13：31～35（新約聖書 195 ページ）

4、今日の内容

心に留めたい聖書のことば

⑨「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。

わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

2月に入りました。ゆり組の子どもたちは幼稚園に通うのも、あと1か月ちょっとになりました。小学校の半日入学もそろそろです。初めて幼稚園に来た時のことを思い出すと、子どもたちの成長に驚かされるのではないのでしょうか。

今日の聖書の集いは、「互いに愛し合うこと」について考えてみます。聖書には愛という言葉が多く出てきます。この会でも何度も取り上げておりますが、聖書が語る愛について、今一度心を向けてみましょう。

① 最近のニュースから

先日、とても胸が痛くなる事故が起きました。島根県で子どもたちの見守りをしていた73歳の男性が、飲酒運転の車にひかれて死亡したという事故です。この男性は33年前に7歳の娘を交通事故で失っており、それから同様の事故がないように、見守りを続けていたということ。

彼の目の前で、横断歩道を渡っている男の子に車が突っ込んできました。そこで彼は男の子を突き飛ばし、身代わりになって車にはねられたそうです。このニュースを聞いて、この男性は本当に子どものことを大切に思っていたのだろうなと思うと、涙があふれました。誰か大切な存在を、自分の命を犠牲にしてまで守ること。言葉では簡単に言えますが、とても難しいことです。

② アンパンマンに学ぶ

少し視点を変えてみたいと思います。みなさんはアンパンマンをご存じでしょうか。我が家の子どもも小学生になる前は、よく見ていました。ちなみに娘は「ばいきんまん」、息子は「だんだん」、わたしは「てんどんまん」がお気に入りでした。

さてアンパンマンを見ていて、いつも不思議に思うことがありました。アンパンマンって、顔が濡れたり欠けたりしたら、力がなくなりますよね。そして必ずピンチを迎えます。



それなのにいつも、お腹を空かせた子がいると、頭をもいでその子に食べさせてあげます。たとえ自分がそのあと大変な目に合うことがわかっているとしても、その子のことが大切なのです。

③ 互いに愛し合いなさい

「愛」というと、一方的にいただけるものだと感じるかもしれません。また誰かを愛したときに、それ以上愛してくれないと、腹を立ててしまうこともあるでしょう。

しかし聖書の語る愛とは、何らかの犠牲を伴うものです。たとえば電車で座っているときに、目の前におばあさんがいたとします。とっても辛そうに立っているのを見かねて、席を譲ったとします。別にお礼をもらえるわけではありません。目的地まで立たなければいけないので、足は痛くなります。でもおばあさんは喜んでくれる。これが小さな愛です。

また車に乗って急いでいるときに、大勢の子どもたちが、横断歩道を渡ろうとして手をあげていたとします。どうしようかと思いつつ、減速して停まったため、数分間の時間を失ってしまいました。でも子どもたちはお辞儀をしながら渡っていきます。これも小さな愛です。

そしてご自分の子どもたちに愛情を注ごうとするときに、わたしたちはいろいろなものを犠牲にしていきます。でもそれでいいのです。その犠牲が大切なのです。お互いに少しずつ何かを失いながら、でもなによりも相手のことを大切に思う。それが愛なのです。

＜桃山基督教会での礼拝のご案内：どなたでもお気軽にどうぞ＞

日曜学校（子どもの礼拝）： 毎週日曜日 午前 9 時 30 分から

日曜礼拝： 毎週日曜日 午前 10 時 30 分から